

任職の佛教史も鎌倉時代の佛教に入れま
してしたが重い腰を上げて続きを始めま
す

阿弥陀佛を信仰対象とする浄土教は飛鳥
時代にすでに日本に伝わり、田仁により比叡山の
中で流れがつけられた。『往生要集』を著した源信
「市の聖」として庶民に阿弥陀佛の教えを説いた空也
などが後の良忍（融通念佛宗開祖）法然（浄土
宗開祖）親鸞（浄土真宗開祖）一遍（時宗開祖）
につながる素地をつくった

まず浄土宗開祖法然上人から書き始めます

法然は比叡山をおり京都東山に草庵を結び
念佛の教えを説き始めました。その教えは広く受け
入れられ南都の寺院や比叡山からも注目されるよう
になり、後に天台座主となる顕真が大原の勝林院
に招き念佛の教えを聞くこととなり、高僧・孝僧
三百人余が集まり、法然は浄土宗についで説いた
（大原回答といわれる）この結果集まった多くの人が
帰依、九条兼実をはじめ貴族の中にも帰依する
人がふえた。法然の名声が火のごとく浸透し始めた。

住職の佛教史

(中断しておりました。又、続けます。)

鎌倉佛教

阿彌陀佛を信仰対象とする浄土教は、飛鳥時代にすでに日本に伝わり、円仁により比叡山の中で流れが作られた。『往生(おうじょう)要集』を著した源信、「市の聖」として、庶民に阿彌陀佛の教えを説いた空也などが、後の良忍(融通念仏宗開祖)、法然(浄土宗開祖)、親鸞(浄土真宗開祖)、一遍(時宗開祖)につながる素地をつくった。

まず、浄土宗開祖、法然上人から書き始めます。

法然は・比叡山をおり、京都東山に草庵を結び、念佛の教えを説き始めました。その教えは、広く受け入れられ、南都の寺院や比叡山からも注目されるようになり、後に天台座主となる顕真が、大原の勝林院に招き、念佛の教えを聞くこととなり、高僧、学僧、三百人余が集まり、法然は、浄土宗について談じた。(大原問答といわれる)

この結果、集まった多くの人が帰依。九条兼実をはじめ、貴族の中にも帰依する人がふえた。法然の名声が、火のごとく浸透しはじめた。

続きは来月に

住職 仁阿